

17. QoI剤感受性低下菌が発生したブドウ病害に対する有効な防除薬剤

[要約]

ストロビルリン系薬剤（QoI剤）への感受性低下菌が発生したブドウ晩腐病及び褐斑病に対して、落弁～果粒マッチ頭大期にマンゼブ水和剤を組み込んだ防除体系は効果が高い。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話086-955-0543

[分類] 技術

[背景・ねらい]

県内各地の「ピオーネ」産地でストロビルリン系薬剤（以下QoI剤、商品名：アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブルなど）への感受性が低下した晩腐病菌及び褐斑病菌が高率に出現し、防除上の問題となっている。そこで、これら病害に対し耐性菌発生リスクの低いマンゼブ水和剤（ペンコゼブ水和剤及びジマンダイセン水和剤）の幼果期散布の有効性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. QoI剤への感受性が低下したブドウ褐斑病菌及び晩腐病菌が発生している「ピオーネ」圃場（トンネル被覆栽培）において、落弁～果粒マッチ頭大期にQoI剤に替えてペンコゼブ水和剤1,000倍を1回組み込んだ防除体系（表1）は、晩腐病及び褐斑病に対して有効である（図1）。
2. ペンコゼブ水和剤1,000倍は、「ピオーネ」において果粉溶脱は実用上問題とならない。

[成果の活用面・留意点]

1. 本防除体系は、トンネル被覆栽培などのブドウに適用でき、べと病にも効果が高い。
2. ペンコゼブ水和剤（使用時期：収穫45日前まで）は、散布が遅れて果粒が肥大すると（果粒大豆大期以降）、汚れが目立ってくるため、散布時の果粒の大きさに十分注意する（データ省略）。

[具体的データ]

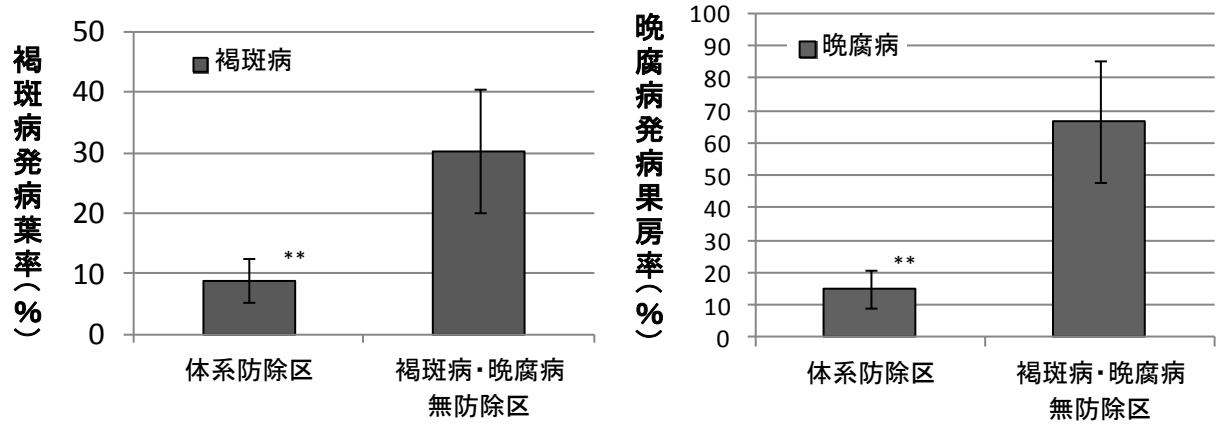


図1 ペンコゼブ水和剤を用いた防除体系の効果（左図；褐斑病，右図；晩腐病）

注) 試験場所：農業研究所病虫研究室圃場，品種：ピオーネ（簡易被覆），1区10～20m²，4反復
 発病調査日：褐斑病；2015/7/15（各区約200葉調査），晩腐病；10/13（各区4～23果房調査）
 発病程度：褐斑病；多発生，晩腐病；少発生
 図中のバーは標準誤差を、**は χ^2 検定による無散布区との有意差があることを示す（ $p < 0.01$ ）。

表1 試験区の殺菌剤散布体系

試験区	4月9日 (発芽前)	5月19日 (開花直前)	5月28日 (落弁～マツチ頭大)	6月4日 (小豆大)	6月18日 (大豆大、袋かけ前)	7月6日 (袋かけ後)
体系防除区	ベフラン液 石灰硫黄合剤	フェスティバルM水	ペンコゼブ水	アフエットFL	オンリーワンFL ベトファイター顆水	ICボルドー66D
褐斑病・晩腐病 無防除区	ベフラン液 石灰硫黄合剤	—	—	—	ベトファイター顆水	ICボルドー66D

注) 薬剤の希釈倍率：ベフラン液剤25 250倍，石灰硫黄合剤7倍，フェスティバルM水和剤1,000倍，アフエットフロアブル2,000倍，ペンコゼブ水和剤1,000倍，ベトファイター顆粒水和剤3,000倍，オンリーワンフロアブル2,000倍，ICボルドー66D 50倍

[その他]

研究課題名：主要農産物における殺菌剤耐性菌の発生実態の解明と有効薬剤の選抜

予算区分：交付金（病虫害防除農業環境リスク低減技術確立）

研究期間：2013～2015年度

研究担当者：桐野菜美子、妹尾真里、井上幸次